

第39回

杉並郷土

東京文化財ウィーク2025 参加事業

令和7年
11月16日(日)
13:00~17:30〔12:30開場〕
セッション杉並 ホール

出演

ばやし
井草囃子保存会

おお みや まえ
大宮前郷土芸能保存会

ばやし
高井戸囃子保存会

なり むね ばやし
成宗囃子保存会

はな こ
華 鼓

ゆう えい かい
友栄會はやし連中

芸能大会

出演プログラム

※各演目の時間は目安です。進行上前後することをご了承ください。

開会の挨拶 (13:00～)

杉並区教育委員会事務局 生涯学習担当部長 武井 浩司

祭囃子〔大宮前囃子(杉並区登録無形民俗文化財)〕 (13:05～)

大宮前郷土芸能保存会

祭囃子〔関口囃子〕 (13:30～)

友栄會はやし連中

里神楽「日代の宮」〔大宮前里神楽(杉並区指定無形民俗文化財)〕 (13:55～) 大宮前郷土芸能保存会

けいこうてんのう ひしろ みや おおうすのみこと おおうすのみこと やまとおぐな やまとひめのみこと
景行天皇：竹村 和朗 大 碓 命：鈴木 力 小 碓 命(倭男具那)：深澤 恵実 倭 姫 命：高木 しのぶ
笛：仲村 結 大拍子：川喜多 智信 大太鼓：牧野 慶治

祭囃子〔成宗囃子〕 (14:35～)

成宗囃子保存会

和太鼓「春雷・祭」〔牙〕〔神輿〕 (14:55～)

華 鼓

祭囃子と獅子舞ともどき〔高井戸囃子(杉並区登録無形民俗文化財)〕 (15:20～)

高井戸囃子保存会

里神楽「熊襲征伐」〔大宮前里神楽(杉並区指定無形民俗文化財)〕 (15:50～) 大宮前郷土芸能保存会

くまそそのや そ たける おおすのみこと おおすのみこと やまとおぐな やまとひめのみこと
熊襲八十烏師：牧野 慶治 熊襲の従者(一)：深澤 恵実 熊襲の従者(二)：仲村 結 小碓命(倭男具那)：川喜多 智信
笛：竹村 和朗 大拍子：鈴木 力 大太鼓：高木 しのぶ 鉦：鈴木 麻衣

祭囃子と獅子舞〔井草囃子(杉並区登録無形民俗文化財)〕 (16:40～)

井草囃子保存会

閉会の挨拶 (17:10～)

杉並郷土芸能保存会 代表 牧野 慶治

井草囃子保存会

井草囃子は1852年（江戸時代末期、嘉永5年）に阿佐ヶ谷の横川初五郎・弁次郎兄弟によりあみ出した田湊流中間囃子^{たぶち ちゅうま}が、その弟子の本多桑次郎^{ほんだくめじろう}により上井草村寺分^{てらぶ}に伝えられ、寺分囃子といわれていましたが、その後村内の中通、瀬戸原、善福寺、原に伝わり、下井草村の八成、沓掛^{はちなり くつかけ}に広まり、上井草村全体に広がり、井草囃子となりました。井草八幡宮には明治27年3月の「囃子奉納絵馬額」も残されていることからその歴史がわかります。その絵馬には発起人を含め総勢51名の囃子連中の名前が書かれています。昭和51年に伝統ある井草囃子の継承、技術の向上をはかり、会員相互の親睦を目的に保存会を発足させ、井草八幡宮の祭礼をはじめ、様々な行事に参加し、普及、継承につとめております。

大宮前郷土芸能保存会

船橋囃子（現・世田谷区千歳船橋）の系統を伝えられ、下高井戸八幡神社の四代目宮司・齋藤近太夫^{さいとうきんだゆう}が教えたと言われる早間囃子^{はやま}です。活動拠点である春日神社には大正11年に奉納された額があり、「創立安政三年以来連名」と書かれていたことから、安政年間には伝わっていたようです。現在、週二回の稽古で技術向上に励んでいます。なお、当保存会は「里神楽」を演じることのできる都内でも数少ない団体です。

高井戸囃子保存会

高井戸囃子は江戸の末期か明治の初めに当地に伝えられたと思われます。明治20年代の活動の記録が「祭礼囃子の由来」に記載されており、また明治憲法発布のお祝いに皇居前広場で演じたことが伝えられています。昭和49年、保存会を結成、週一回の練習を続けています。昭和57年、杉並区より無形民俗文化財の登録を戴き、地元第六天神社の祭礼を中心に、大宮八幡宮、高井戸地域区民センター、近隣の学校の周年行事、結婚式、老人ホームの祝辞事など、お祝事に招かれる機会も多くなっています。これらのお招きに対応するため、若い会員を育てることを第一に、獅子舞、もどき等も併せて練習に励んでいます。

成宗囃子保存会

杉並区の中ほどにある成宗須賀神社にて活動しております。当神社の祭囃子は第二次大戦を機に途絶えていましたが、昭和50年代（1980年頃）に神社近隣の有志と大宮前郷土芸能保存会の協力を得て復活し今日に至ります。神社例大祭の盛り上げ役として、また杉並郷土芸能大会やたのもし会といった催し物に向けて稽古に励んでいます。

華 鼓

昭和60年 不動産会社 株式会社オレンジボード社内に太鼓クラブチーム「華鼓」^{はなこ}を発足。大江戸助六太鼓^{おおえ ど すけろくだいこ}の小林正道^{こばやしせいどう}先生の太鼓道場に通い、手ほどきを受けました。現在は、荻窪八幡宮奉納太鼓^{おぎくぼはちまんぐうほうのうだいこ}や、福祉施設・保育園のイベント等、会社の所在地である杉並区近辺を中心に地域密着で演奏を行わせていただいております。発足のきっかけとなった地域に貢献したいという思いを受け継ぎ、活動を続けております。

友栄會はやし連中

友栄會はやし連中は杉並区成田東（旧東田町二丁目）を中心に活動するお祭りの会「友栄會」所属の囃子連です。田端村字関口（現成田東三丁目付近）周辺で継承されてきた「関口囃子」を保存しております。田端神社の氏子であり、例大祭やお正月の獅子舞門付けなど、絶やさないよう現在も活動を続けております。特徴は威勢いい早間^{はやま}の囃子です。田畑が広がっていた当時、遠くまで祭りの知らせが伝わるようにという願いを先人から引き継ぎ、住宅街になった現在でも教えを守っております。一時期は会員数が減少し存続の危機も迎えましたが、地域に助けられ現在では小学生から大人まで太鼓や獅子舞など多彩な稽古に精進することが出来ております。

里神楽 あらすじ

「日代の宮」

纏向まきむくの日代の宮けいこうにて、第十二代景行天皇は、双子の皇子・大碓命おおおうすのみことと小碓命おうすのみことに、南九州一帯に勢力を持ち大和朝廷に反逆する熊襲くまそ八十烏師そ たけるを征伐するように申しつけます。しかし兄の大碓命は文官で武力には自信がなかったので、その任を辞退しました。そのため父天皇の怒りを被り、官位を剥奪されて農耕に服するよう命じられます。父に見放され日代の宮を去っていく兄。小碓命と、景行天皇の妹姫で兄弟には叔母にあたる倭姫命やまとひめのみことの二人は嘆き悲しみます。景行天皇は小碓命に熊襲征伐を命じ、小碓命は父天皇の申しつけを拝受します。倭姫命は出立にあたり、小碓命に剣と衣装を授け、武運を祈ります。そして小碓命は熊襲征伐に出立します。

「熊襲征伐」

「日代の宮」で熊襲征伐に出立した小碓命。熊襲の館では、新宝楽（新築落成の祝宴）が行われていました。小碓命は倭姫命よりたまわった被衣かつぎをまとして女人に扮し、祝宴に紛れ込みます。思わぬ美女の登場に気をよくした熊襲と従者たちはしたたかに酒を飲んで眠ってしまいます。そこで小碓命は被衣を取り、隠し持っていた剣で熊襲に戦いを挑みます。驚いた熊襲はまず従者を立ち向かわせませんが、あえなく討たれてしまいました。従者たちに泣きつかれた熊襲はいよいよ自分の出番、と小碓命に挑みますが、勇猛果敢な小碓命には勝てず、ついには降参します。

景行天皇

第十二代天皇（在位景行元年～60年）。垂仁天皇の第二王子。

大碓命

景行天皇の皇子。

小碓命（倭男具那）

景行天皇の皇子で大碓命の双子の弟。のちの日本武尊やまとたけるのみこと。

倭姫命

景行天皇の同母の妹。大碓命と小碓命の叔母。伊勢神宮の最初の斎宮さいぐうといわれる。

熊襲八十烏師

南九州一帯に勢力を持ち、大和朝廷に反逆する首領。

纏向の日代の宮

景行天皇が紀元730年に即位後設けた宮。纏向遺跡は現在も奈良県桜井市の北部に遺っている。

熊襲八十烏師と小碓命の謡

「熊襲征伐」の終盤で熊襲八十烏師と小碓命による謡（神楽の声楽）が披露される。

熊襲「暫く 暫く その御剣 動かし賜いそ 汝 何神にて候ぞ」
（しばしお待ちを。その剣を動かさないでください。あなたはいずれの方ですか。）

小碓命「吾は 纏向く 日代の宮にいます 天皇の御子 名は倭男具那と申す」
（私は纏向の日代の宮におられる天皇の皇子、倭男具那と申します。）

汝 熊襲 無礼なるが故に 取殺れとの詔なるぞ」
そなたが天皇に無礼をはたらくというので征伐せよとの詔を賜りました。）

熊襲「西の国において 我より強き 猛き 男の子あり 今より後は 御名を 日本武尊 と 捧げ奉る」
（私より強き者がいるとは。どうぞ日本武尊の御名を捧げ奉らせてください。）